

栗山町まちづくり懇談会 議事録

日時：令和4年11月15日（火）18：30～19：56

場所：南部公民館

出席者：20人

1. 開会

2. 町長挨拶

※配布資料確認及び日程説明

3. 懇談

(1) 第7次総合計画の策定について

(2) 自由懇談

4. その他

○空き家相談窓口チラシ参照

5. 閉会

《懇談内容》

【自由懇談】

町民：墓園墓地の関係。今の墓地も結構整備されていて素晴らしいなと感じてはいる。しかしながら、入り口がちょっと狭いなと感じており、坂になっているので事故の心配がある。入り口を広げられると良いと思うが、どのような状況か教えて頂きたい。

環境政策課課長：担当課としても入口が狭いという認識がある。只、道路を広げる等の工事を行うには、土地の所有者との兼ね合いがある。現在、町の所有ではなく個人の所有となっており、所有者との交渉を行っているところ。コロナの関係等もあり、交渉が中々進んでいないが、様々な方から要望があるのは承知しており、工事を行いたいと考えているので、引き続き話が前に進んでいくよう、努力していく。

町民：継立中学校の跡地について、今どの様になっているのか、状況等をお聞かせ頂きたい。

副町長：以前、地域説明会も行っており、事業者が決まっている旨をお話していた。その後、期間が延びてしまっていることをまずお詫び申し上げます。事業者とは継続して協議を行っており、土地については有償の貸付、建物については無償の貸付として、仮契約をしている状況。建物は引き続き町の所有となっており、老朽化していたため、今年改修工事を行っている。今後は建物内の整備を行っていき、令和5年4月から本格的に事業者

て活用を始める予定。

町民：町の財政状況について。平成 20 年度では積立金の残高が 7 億あり、令和 3 年度では 16 億となっている。公債費償還額は平成 20 年では 20 億、令和 3 年では 11 億となっている。この状況を見れば、財政は良くなっていると感じるが、詳しく教えて頂きたい。また、栗山高校について、二間口になるとの話を聞いているが、その辺りについても話を聞きたい。

町長：財政状況についてお答えします。基金残高と公債費の件についてのご質問だったが、過去に行財政改革を進めていた時期から比べると、ここ数年の財政状況は改善してきていると感じている。コロナの関係から、地方交付税が増えたり補助金等の兼ね合いも大きい。7 次総合計画中の令和 12 年度までは、様々な事業を行いながらも、安定した財政状況で推移できる状況となっており、突発的な災害等が起きても、十分賄えるくらいの基金は確保出来ていると考えている。但し、令和 13 年度以降については、公債費の支出が若干増えていくので、そこに備えて基金を確保しながら、安定した運営に努めていきたい。

教育長：栗山高校については二間口堅持という結論に至った。二間口堅持に至った経緯としては、道教委へ提案した教育プログラムが評価された為。全道的にみて、二間口から一間口に減った高校が半数以上ある中で、町としても道教委に何か提案していかないといけないと感じていた。その中で、文部科学省が行っている、高専一貫教育プログラムに応募し、全国で唯一栗山町が合格となっている。この事業は 1 年間で 2,400 万円の補助金が付くもの。この事業を行いながら、まずは介護福祉学校の経営基盤を確立させ、栗山高校と介護福祉学校の連携を深めていくという中身となっている。詳しい内容としては、福祉と介護に特化した普通科高校という形で進めていく。全国的な課題である介護人材の育成や人材不足に対して、町全体で福祉を支えることの出来る人材を育成し、今後の高齢化社会へ対応したまちづくりにも直結させていくという考え。全国で初めての事例であり、この内容が道教委からも高い評価を受けたことで、栗山高校の二間口堅持という結論に至った。その結果、全国公募をかけることの出来る高校にもなっている。これも全道で初のこと。この流れが栗山高校女子野球部にも繋がってきており、現在道外から 2 名応募がある状況。

しかしながら、2 クラスの基準となる 41 名の入学者を確保することが喫緊の課題であり、校長先生や金監督と一緒に、全道・全国の中学校を回り、学生確保に努めている。栗山町内の子どもたちも、毎年 3 割くらいは栗山高校に入学してくれているが、更に増やしたい。高校自体に魅力がなければ子どもたちに選んで貰えないので、高校改革も進めて貰っている。一番大きな改革は、国公立大学進学に対応できる高校づくり。生徒 1 人 1 人の希望する大学に合わせた 3 年間の個別学習メニューを、令和 5 年度から始めていく。今年度から研修等を進め、既に体制は整っている状況。もう 1 つは、栗山高校は周辺の大きな高校と同じくらいの推薦枠を持っていること。これは非常に大きなことで、歴代の先輩方

の結果。この財産を活かし、栗山高校に進学しても、他の高校と同じ様な推薦を受け進学出来るメリットがあることを周知していきたい。

そういった中で、女子野球も来年度は1チーム出来そうな状況となっている。来年1月が高校進学願書締め切り時期となっているので、41名以上の生徒確保に向けて、引き続き力を注いでいく考え。近場に声を掛けられるお子さんがいれば、皆さんにも是非ご協力頂ければと思う。

町民：栗山町は公営住宅の家賃が高いという話を聞くがそのあたりはどうか教えてほしい。家賃が高いから栗山に移住出来ない、逆に周辺の自治体へ引っ越ししたりしてしまう人がいるという話を聞く。

建設総括：公営住宅についても2種類あり、国や道から補助金を受けて建設する場合と自治体独自で建設する場合がある。栗山町は国から支援を受けて公営住宅法に基づく形で住宅を建設している。大きな市であれば、独自で建設している市営住宅等があるが、栗山町周辺の自治体は国や道から補助金を受けて建設している公営住宅となっている。その為、栗山町も周辺の自治体も、全て同じ基準で家賃が設定されている。本人の収入に合わせて家賃が計算されており、一定以上の収入がある方は入居出来ない仕組みとなっている。これは、低所得者の方への支援となっている為。なので、公営住宅の家賃については、栗山町だけが高いということではなく、周囲の自治体と変わりはないと思われる。

只、民間の賃貸住宅の家賃に関しては、栗山町が平均して高いという話はよく言われている。

町民：民間の住宅の家賃に関しても、家賃が高いことで移住等に影響が出るのではないかと考えている。

また、子育て世代の人がまちづくり懇談会に来ていない。町としては若い世代の人の話も聞きたいとのことだが、何か良い方法はないものかと思っている。

町長：若い世代の方が懇談会に参加出来ていないという点について、この7次総合計画の原案を作成するに当たっては、若い世代の方を含めたアンケート調査を行っていた。また、分野別の色々な団体を交えた懇談会や、女性の小サークルへのグループインタビューというのも行った。そういった機会には、若い世代の方を含めた、色々な層の方の意見を聞くことが出来たと考えている。町民参加の一つの手段として、そういった場を活用して意見の集約を行っているので、7次総合計画には様々な方々の考え方が盛り込まれているという認識をして頂けると有難い。

只、おっしゃる通り、こういったまちづくり懇談会の様な場にも、若い世代の方が来やすいような工夫を行っていかねばならないと感じているので、その点はしっかりと取り組んでいきたい。

若者定住推進課長：40歳以下の方または中学生以下のお子さんがいる方が対象ではあるが、移住促進制度として、新築住宅を建てる場合や中古住宅を購入・リフォームする場合に助成金を受けられる制度がある。また、民間の賃貸住宅の家賃が高いと言われている部分に

については、正社員として栗山町に在住できる方という条件があるが、一部家賃補助等も町として行っている。

町民：中学生のお子さんがある家庭向けに、栗山高校が変わっている事をアピールしていくと効果的なのでは？

教育長：中学校で現在３者面談を行っている。各担任の先生や管理職から栗山高校の話を保護者向けに行って貰っている。まだまだ栗山高校が変わっていることを十分に周知出来ているとは思っていないが、外部の方の協力も得ながら、様々な方法でアピールしている状況。例えば、元日ハムの鶴岡さんに野球解説中に栗山高校の話題を話して貰ったりもしている。出来ることは何でもやっていこうと思っているので、皆さんも機会があれば、ぜひ高校のPRに協力して頂ければと思う。

19：56 終了